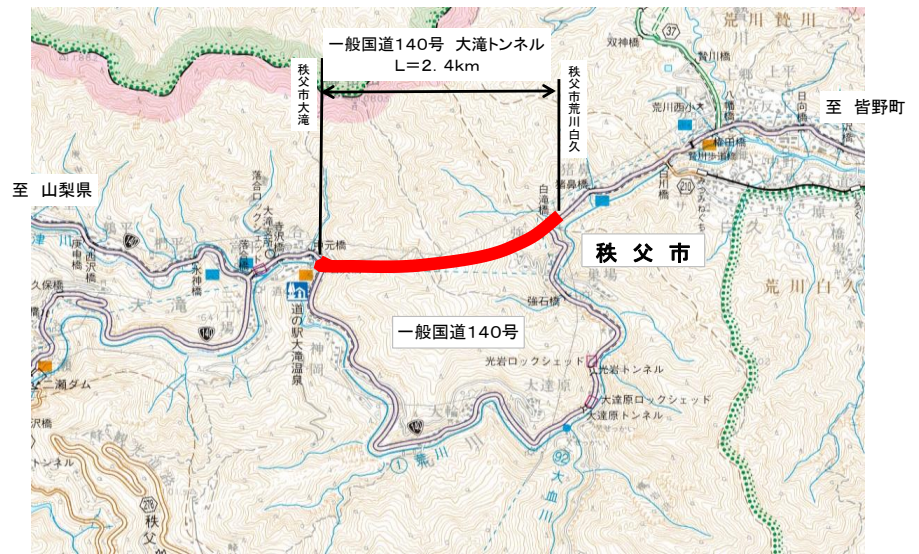


再評価結果（令和5年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・技術課
担当課長名：長谷川 朋弘

事業名	地域高規格道路 <small>にしかんとうれんらく</small> 西関東連絡道路 一般国道140号 <small>おおたき</small> 大滝トンネル	事業区分	一般国道	事業主体	埼玉県
起終点	自：埼玉県秩父市荒川白久 <small>ちちぶ あらかわしろく</small> 至：埼玉県秩父市大滝 <small>ちちぶ おおたき</small>	延長	2.4 km		
事業概要					
西関東連絡道路は、関越自動車道花園ICと新山梨環状道路を結び、秩父・児玉・大里地域と山梨地域との広域交流を促進する延長約110kmの地域高規格道路である。本箇所は、西関東連絡道路の一部を構成する区間であり、アクセス性向上、防災機能の強化、走行性向上、走行安全性の向上を図ることを目的とし、整備を進めている。					
H30年度事業化		都市計画決定なし		R元年度用地着手	
R元年度工事着手					
全体事業費	約99億円	事業進捗率	約16%	供用済延長	— km
計画交通量	5,900台/日				
費用対効果	B/C	総費用	総便益	基準年	
	(事業全体) 3.1	(残事業)/(事業全体) 54/94億円	(残事業)/(事業全体) 286/286億円	令和4年	
	(残事業) 5.3	事業費：47/87億円 維持管理費：7.1/7.1億円	走行時間短縮便益：235/235億円 走行経費減少便益：48/48億円 交通事故減少便益：3.7/3.7億円		
感度分析の結果					
(事業全体) 交通量：B/C=2.7~3.4 (交通量±10%) (残事業) 交通量：B/C=4.8~5.9 (交通量±10%) 事業費：B/C=2.9~3.3 (事業費±10%) 事業費：B/C=4.9~5.8 (事業費±10%) 事業期間：B/C=2.8~3.3 (事業期間±20%) 事業期間：B/C=5.0~5.6 (事業期間±20%)					
事業の効果等					
①安全な通行空間の確保 カーブが連続する約7kmの現道が、トンネルの整備により、約2kmの直線道路となる。					
②防災機能の向上 第一次特定緊急輸送道路に指定されており、トンネル整備により、防災機能が向上する。					
③地域の活性化 秩父地域～山梨県間へのアクセス性が向上することにより、物流の効率化が期待されるとともに、観光客の増加が見込める。					
関係する地方公共団体等の意見					
秩父市、小鹿野町など秩父地域の沿線自治体議員で構成される秩父地域基幹道路建設促進議員連盟(県、秩父市、横瀬町、皆野町、長瀬町、小鹿野町、東秩父村)から早期完成を最重点として要望されている。					
事業評価監視委員会の意見					
事業継続を妥当と認める。					
事業採択時より再評価実施までの周辺環境変化等					
周辺環境等に特に変化はない。					
事業の進捗状況、残事業の内容等					
用地進捗率約89%、事業進捗率約16%					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等					
用地買収及びトンネル本体工が順調に進んでおり、事業期間内の完了予定である。					
施設の構造や工法の変更等					
大滝トンネルの工事発生土を(主)皆野両神荒川線の道路盛土に工事間流用することで、コスト縮減を図る。					
対応方針	事業継続				
対応方針決定の理由	事業の必要性、重要性は変化なく、費用対効果の投資効果も確保されているため。				

事業概要図



- ※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価値を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
- ※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳と一致しないことがある。